

## 札幌新まちづくり計画「文化・人づくり分科会」での議論のまとめ（明朝体は第3回会議までの、ゴシック体は第4回会議での議論+中島委員追加意見）

H16.2.23

重点の柱	課題の認識	重点的に取り組む施策	具体的な取り組みに向けての意見
地域とたの育 連携子ども 教育	・子どもの教育は、学校だけでなくPTAや地域・企業がかかわっていくべき	・学校運営へのPTA・地域・企業の積極的参加	・まちづくりセンターを活動の拠点として活用・展開 ・学校評議員制度への地域企業の参加
	・家庭での子育て・教育に企業が積極的にかかわるべき（家庭の努力だけでは限界がある）【共生分科会共通】	・社員の家庭や地域を大事にする企業の育成	・「ファミリー・フレンドリー企業」への支援（広報活動など）
	・家庭のきずなを強め、子どもの倫理観を育てる必要がある ・世界各国の文化や伝統文化を通じて「生きる哲学」を学ぶべき	・主体性や自律意識といった子どもの「生きる力」をしっかりと育てる（学校・家庭・地域が連携して取り組む）	・自然観、人間観という価値観を教育の中に位置づける ・子どもを育てる大人に、倫理観、尊厳死などの問題を含めた生きる哲学を学ぶ環境をつくる
	・フリースクールは、勉強だけでなく文化教育面で特色を出し成果を上げているところがある ・不登校の子供たちは、社会やいろいろな人に触れることが重要	・フリースクールと学校教育の連携の取り組み ・不登校の子どもたちが社会や人と触れあう機会づくり	・総合学習の場や不登校児が来られる場所としてフリースクールと学校が交流 ・廃校を活用したNPOや文化活動の拠点整備（フリースクールの子供たちが触れあう場）
札幌を支える人づくり	・家庭の教育力が発揮されていない現状を学校だけでカバーすることは無理。地域の人材が子どもの教育に積極的にかかわるしくみが必要（高齢者の生きがいにもつながる）	・地域のボランティアや年長者、高齢者、人生経験者が教育に携わったり子どもの相談に乗るしくみづくり（地域の中で交流できる場づくり）	・個別指導や総合学習などに地域の人材を活用するしくみづくり
	・公共サービスの拡充を地域（受益者側）が担っていくことを考えなければならない（ボランティア活動を主体的にとらえられるしくみが必要）	・公共サービスを地域のボランティアが担っていくしくみづくり（自分自身が成長するきっかけとしてもボランティアを位置づける）	・図書館サービスの拡充を地域のボランティアが担うしくみづくり
	・社会人が集まり、小さな文化、伝統文化を学び体験する場が必要	・都心部の公共施設を夜間開放し、小さな文化やアイヌなどの伝統文化を伝える場として提供	・広範な市民を対象とした学校開放のモデルとして、都心の資生館小学校を夜間の成人学校として開放
	・市立大学ならではの地域との連携を考えるべき	・市立大学と地域の大学や市の持つ諸施設との連携のしくみづくり	・大学間の単位の相互互換の拡充 ・札幌市職員の研修活用、市立高校との連携
芸術・文化に触れ地域の交流を広げる	・週休二日制導入などで、子どもたちが芸術・文化、スポーツに触れる機会が減っているのではないか	・子どもたちが、教育の場で芸術や伝統文化に直接触れる機会づくり（子どもたちの社会性をはぐくむ取り組み）	・子どもたちを美術館・博物館や伝統文化に触れる場所などに連れて行く体験学習や特別講師による授業の実施 企業・NPOを登録制とし助成 ・総合的な学習の時間でアイヌ民族の伝統・生活文化を学ぶ
	・小さな表現の場を広げていくことが、文化の成熟につながる	・小さな表現活動を支援するしくみや場づくり ・子どもたちや地域の人々が共に芸術・文化を楽しむ場づくり	・小さな表現活動（若者の創作・表現活動）に対する助成 ・廃校を活用したNPOや文化活動の拠点整備（モデル事業） ・NPOによる活動の場づくりへの助成
	・質の高い芸術の振興と小さな芸術・表現活動をつなげていくことが大事	・質の高い芸術・文化と個人レベルの小さな芸術・表現活動をつなげる取り組み	
	・国内外の芸術家を札幌に招き直接触れあうことが、異文化交流につながり地域に活気が生まれる	・国内外の芸術家との地域ぐるみでの交流の機会づくり	・アーティスト・イン・レジデンスのような仕掛けをつくる ・アーティスト・イン・レジデンス事業の拡大
身近にスポーツを楽しむ	・冬のスポート活動が停滞している	・街中に冬の市民スポート活動活性化のための場づくり	・大通公園に無料のスケートリンクを造る ・大通公園で日常的な歩くスキーの市民教室を開催
	・子どもたちがスポーツの授業を楽しく感じていないのではないか	・体を鍛える、技術を習得するスポーツから、自然と触れあいスポーツを通じて新たな発見をするような学校体育を実践する	
	・どのようなクラブづくりが札幌にふさわしいのか実験・検証していくべき	・地域スポーツクラブのモデルづくり	・市街地にいつでも遊べるようなスポーツクラブをパイロット事業で実施
	・札幌に本拠地を持つプロスポーツクラブを地域に根ざしたものに育てていく必要がある	・トップスポーツと地域のスポーツをつなぐしくみづくり	
札幌の特色を活かす	・子どもたちが外に出る機会が大幅に減ってきている（特に冬季）	・冬のイベントを区や小学校単位で行うなど、家族ぐるみで外に出る機会を増やす	・ジャンプ場など既存のスポーツ施設を活用した、遊びのイベントの実施（支援）
	・札幌の特色・財産である冬のスポーツの人気・集客力が、伸び悩んでいる	・冬のスポーツを札幌ブランドとして再生する	
	・札幌の中心部で、健康・文化・スポーツといったものを融合したイベントで札幌の魅力アピールすべき	・街中の公共空間で札幌ならではの文化・スポーツをアピールする仕掛けづくり	・大通公園、豊平川を利用した文化・スポーツイベント（大道芸、歩くスキー大会など）の開催